

第 14 回 武庫川流域委員会 議事骨子

1 議事録及び議事骨子の確認

松本委員長と武田委員が、議事録及び議事骨子の確認を行う。

2 運営委員会の報告

2月16日開催の第16回運営委員会及び2月24日開催の第17回運営委員会の協議状況について、松本委員長から報告があった。

3 治水計画の詳細検討（確率雨量・計画対象降雨の設定（継続）、流出解析（継続））

- ・前回の委員会で質問のあった雨量の確率分布について、河川管理者から補足説明があった。あわせて、奥西委員からグンベル分布等3種類の統計分布の説明があった。
- ・引き伸ばし倍率ごとのピーク流量等について、奥西委員及び伊藤委員から意見書の説明の後、資料に基づき河川管理者から説明があった。
- ・岡田委員からの意見（基本高水流量算出のベースとなる実績雨量データの取扱い等）に対し、河川管理者から県の考え方について説明があった。
- ・川谷委員から、計画降雨の算定方法、流出モデル等の基本的な考え方について説明があった後、河川管理者から流出解析の算出内訳等の詳細説明があった。
- ・上記の意見、説明の後、協議を行った結果、次の3点について確認を行った。

河川管理者は、流量確率のデータを、次回委員会に提出する。

計画降雨の算出手法（引き伸ばし率、棄却、カバー率、古い雨量データの取扱い）について再整理を行う。

川谷委員からの提案による手法1、手法2をもとに議論を進める。

流出解析の基礎データを専門的にチェックするワーキングチームを設置する。ワーキングチームは、池淵、奥西、川谷、畑、村岡、長峯、松本委員長、岡田、佐々木の各委員をコアメンバーとする。

4 ワーキンググループからの報告

ワーキンググループ（まちづくり、森林・農地、環境）から、活動状況等についての報告があった。

5 その他

- ・第18回委員会は、平成17年5月30日（月）13:30から開催する。
- ・河川管理者から、リバーサイド住宅地区及び武田尾地区の河川改修計画の進捗状況（地元説明等）について、報告があった。